

ビンカ パシフィカ・シリーズ XP(スタンダードを含む)

学名: *Catharanthus roseus*

種子粒数の目安: 550 から 800 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.0、また EC は 0.75mmhos/cm(2:1)

播種

使用するトレイサイズは288 穴や 392 穴、あるいは同等のサイズのトレイに播種する。播種後はバーミキュライトで覆土する。発芽には3から5日要する

ステージ1 - 発芽には3から5日要する

温度: 24 から 25°C

光条件: 光は不要

水分: ステージ1では、水分をやや湿潤(level4)に維持

湿度: 子葉が発生するまでは相対湿度を95%に維持

ステージ2

地温: 21 から 22°C

光条件: 最高で 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 標準/中庸(level 3)からやや湿潤(level4)の範囲に低減し、根を培地にしっかりと張らせる

肥料: リン酸分の低い硝酸態の肥料をレート1 (100ppm(N)以下、EC が 0.7mmhos/cm)の濃度で与える

ステージ3

地温: 21 から 24°C

光条件: 最高で 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: かん水の前は培地の表面が薄茶色になって(level 2/やや乾燥)、しっかり乾くようにする。ウェットとドライのサイクル(level 4 から 2)を繰り返す

肥料: 濃度をレート2(100 から 175ppm (N))に上げる。培地の pH を 5.8 から 6.2、EC は 0.7 から 1.0mmhos/cm(1:2)を維持する

ステージ4

地温: 21 から 22°C

光条件: 温度が適性であれば、最高で 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: ステージ3と同じ

肥料: ステージ3と同じ

鉢上げから出荷まで

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.0、初期の養分は中庸とする(EC: 0.75 mmhos/cm)

温度

昼間温度: 24°C以上

夜間温度: 18 から 20°C

照度

適正な温度条件の範囲であれば、できるだけ高くする

かん水

水分は均等に維持する。過湿を避け、葉に水をあまり残さないようにする。過湿は病気の端緒となるので注意する

肥料

移植後1週たってから、主としてリン酸分が低カリウムの多い、硝酸態肥料をレート4(225 から 300ppm(N)、EC: 1.5 から 2.0mmhos/cm)の濃度で与える。培地の pH を 5.5 から 6.0、EC を 1.5 から 2.0 mmhos/cm の範囲に保つ。また、濃度の低い肥料によって施肥の頻度を増やす方法も可能。上記の pH と EC の範囲内であることを確認しながら、レート3(175 から 225ppm(N)、EC: 1.2 から 1.5mmhos/cm)の濃度で施肥する

PGR(矮化剤)

不要である

平均的な生産期間

播種から移植まで

(288,392 穴トレイ、あるいは同等のサイズ): 約 5 週

移植から出荷適期(開花)まで:

カットパック、9cmポット: 5 から 6 週

10 から 11cmポット: 6 から 7 週

播種から出荷適期(開花)まで:

10 から 12 週

※ 出荷までの期間は温度や光強度などの条件によって異なる

病例等

病気: リゾクトニア、ボトリティス、フィットイトラなどについては、殺菌剤等で防除措置をとる

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。